

# めぐりと紫波

発行者 NPO法人紫波みらい研究所  
TEL 019-671-2244 FAX 019-671-2243  
E-mail miraikenshiwa-mirai.com

## 集団資源回収の取り組み事例

### その1

前号3月号で、紫波町が進めている集団資源回収の取り組みを掲載しました。22年度は、実際に集団資源回収を行っている回収団体にスポットをあて、取り組み事例を紹介します。その団体によってやり方はさまざまです。今号では、日詰3区の取り組みを掲載します。

町内会の区長でもある藤本さんが中心となって活動しています。

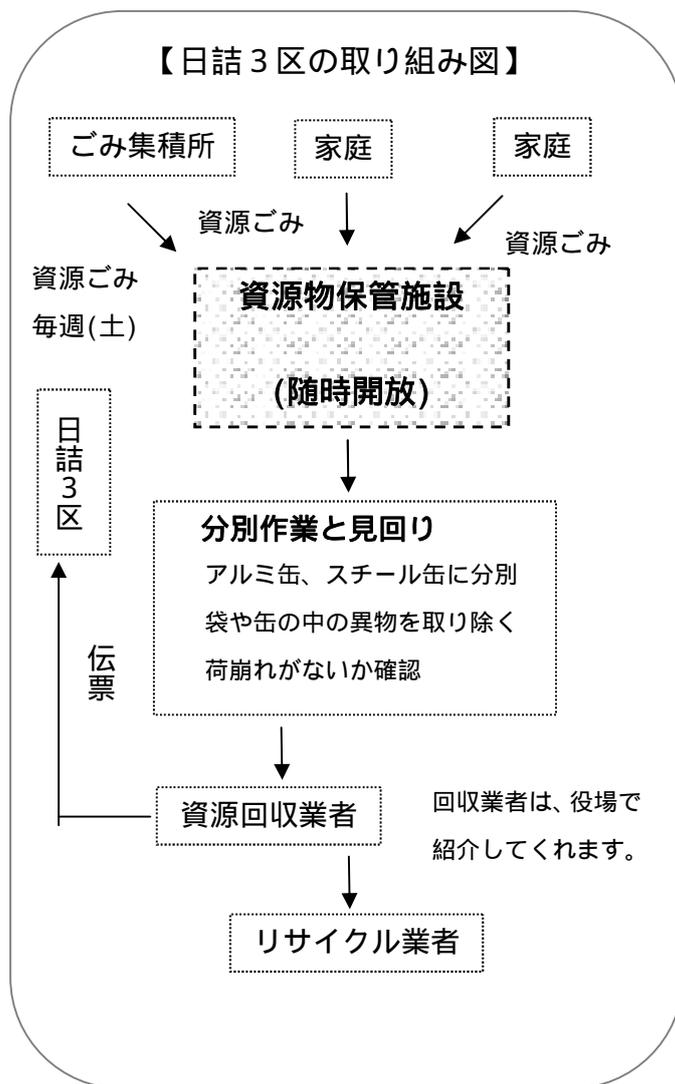
各家庭で整理したときに出る資源ごみ（新聞紙・雑誌・ダンボール・空缶など）は、いつも開放してある「資源物保管倉庫」に、曜日に関係なく持ち込むことができます。各家庭では、集めた資源の置き場所に困ることはありませんし、置き場所がないために町の回収日に出さなくて済みます。また、ごみ集積所に出された資源ごみも、区長さんが中心となり、毎週土曜日に資源物保管庫に持ち込みます。

集められた資源ごみの中には、きちんと分別されていないものや異物が混じっているものもあるので、1時間半程度かけて分別等の作業。異物などが混じると回収業者が回収しないためです。

業者による回収後、回収した資源の量を記入した伝票が業者から送られてくるので、年1~2回町に申請すると補助金が交付されます。

日詰3区では、上記のように区長さんを中心に長年継続されており、平成21年度の回収実績は計8回18tにもなりました。今後の課題としては、回収や分別作業をする担当者を増やしたいということです。ごみの減量化を生活の一部として捉え、自分たちだけでなく次世代の子どもたちのためにも継続していくという覚悟を地域みんなで持ちたいと藤本さんは話していました。

【日詰3区の取り組み図】



ごみ集積所

町が曜日を決めて回収している集積所

資源物保管施設

資源回収団体が町から補助金を交付してもらい、設置することができる保管施設。いつでも（団体によりルールあり）資源ごみを持ち込むことができる。

## ～グループ訪問記～

# おじゃまします - その1 - 城山会(じょうざんかい)

桜満開の季節になりました。紫波町内で桜といえば赤石神社の南面の桜や、運動公園の桜も見事ですが、何といても城山公園。4月17日から始まっている恒例の桜祭りには今年も各地から大勢のお客様がお見えになっています。

この城山公園のふもと上町地域に住んでいる青年で結成されているのが「城山会」で、今年で31年を迎えました。当時120戸ほどの地域でしたが、団地ができて人口が増え始めたことから、新旧住民の交流を進めて住みよい地域にしていこうと結成され、自治公民館建設に大きな役割を果たしました。



## ～私のひとこと～ - その1 -

### 森田 麻里さん(彦部在住)

日詰駅前に宮沢賢治の歌碑がお目見えした。

「さくらばな、日詰の驛の さくらばな  
かぜに高鳴り こゝろみだれぬ」

賢治の初恋の歌だという。その桜は、当時駅のホームにあったらしい

五郎沼では、今年から「さくら祭」も始まった。日詰駅前から、五郎沼、旧県立病院前、桜町、赤石神社の「南面の桜」、運動公園、そして城山へと桜の道がつながっていく。

## イベント情報

うたごえ倶楽部 トンテンカン

うれしいとき、悲しい時、歌はいつでも

あなたのそばに！

とき 5月23日(日)午後2時～4時

ところ 日詰 権三ほーる

参加費 300円

問合せ 権三ほーる 畠山 676-5796

「めぐりっと紫波」は、紫波町環境課からの委託事業で発行しています。

以後、各種スポーツ大会、祭の神輿参加や地域奉仕活動、会員交流会など積極的に活動を続け現在に至っています。城山の草刈り作業と桜祭りのステージ作りは結成以来継続しています。

設立に関わった当時の30代会員も今では60代、暖かな気持ちで応援しています。

さらに住宅地が増加し戸数も5倍以上となった中で新会員も増え、現在会員は60人、会報を年10回発行して意思の疎通を図っています。世代交代も順調に行われ現在の会長は5代目河野努さんです。

今の悩みは2～30代の若い会員が少ないこと、今年は親子で参加できるイベントを企画して加入を呼び掛けていくということです。紫波町のシンボリック的存在である城山公園のよりよい活用を探るために活動を続けていきたいと話されていました。(マ)



撮影：写楽々氏

紫波町は花の美しい町だ。

5月には山屋で水芭蕉祭が開かれる。

フルーツの里の桃やりんごの花々、陣が岡の紫陽花、五郎沼の古代蓮、そば畑の白い花も愛らしい。秋には彦部の456号がサンセットコスモスでゆれる。

東根山周辺ではフラワーロード計画も進んでいるらしい…。

花に導かれて、紫波のまちがつながっていく。

・・・そんな春の予感

今回は、日詰の菊池史子さんにバトンタッチ

### 【編集後記】

めぐりっと紫波は、今年度から毎月発行となりました。これまで以上に、紫波町の情報をタイムリーに発信するため、編集委員一同頑張っていますので、住民の皆さまからの記事投稿や誌面についてのご意見、ご感想をお待ちしております。

編集：みらい研究所

トークセッション

協力：さくら製作所

